


龍野ロータリークラブ週報

ロータリーのマジック

2024-25 年度国際ロータリー会長 ステファニー A. アーチック

	2024-25 年度 会 長 片岡孝次 幹 事 青田賢治 広報委員長 荻野正和	例 会：毎週木曜日 12:30～13:30 龍野経済交流センター1 階 事務局：〒679-4167 たつの市龍野町富永 702-1 龍野商工会議所内 TEL 0791-63-4141 FAX 0791-63-4360 E-mail tatsunorc1@gmail.com
---	--	---

No.27 (3184 号) 2025 年 (令和 7 年) 2 月 6 日 (木) 晴

例会記録

点 鐘 君が代
奉仕の理想

来 客 なし

来訪会員 なし

出席報告

会員数	出席	出席免除	欠席	出席率	前々回欠席	メイクアップ	修正出席率
28	13	10	15	68.40%	7	5	91.30%

会長の時間 ●片岡会長

－税－

2021 年のデータですが、1 年間に小学生一人に使われた税金は 92 万円、中学生では 107 万円、高校生では 113 万円とのこと。

小学生の税教育のためのドリル、名付けて「日本一楽しい税金ドリル」は、『うんこドリル』で一躍脚光を浴びた文響社と財務省主税局がコラボすることで生まれました。このドリルは、『税金がある世界の町』と『税金のない世界の町』をイラストで表し、2つの世界の違いを見つけていくというもので、日頃税金の使途を意識せず暮らしている私たちにもよくわかる内容になっています。

昨年の出生数は 68.7 万人です。60 歳から 69 歳人口は 1558 万人 (155.8 万人/歳)。1 歳から 9 歳人口は 965,1 万人 (96.5 万人)。10 歳から 19 歳人口は 1099 万人 (109.9)。20 から 29 歳人口は 1267.4 万人 (126.7)。30 歳から 34 歳人口 654.7 万人 (130.9)。(私が生まれた 1962 年は 170 万人です。)

龍野ロータリークラブ会員が住まう、あるいは事業所のある地域でも少子化の波がとまりません。私の会社が 50 年以上お付き合いする鳥取市内の会社でも、創業 100 周年を目前に 3 月に自主廃業を決められました。

(2024 年 12 月末人口：鳥取県 53.02 万人・鳥取市 17.9 万人・米子市 14.4 万人)

私は今まさに政治がなすべきは、「少子化の波を断つべく、子供を好きなだけ生み育てることができる環境整備」ではないかと思います。

小学生が税を学ぶために作られたドリルのように、「理想とする社会」を描く。そして、一つずつ施策を実施し、打った施策の効果を検証しさらに次の一手を講じて、理想の社会に一步一步近づいていく。

兵庫県議会では県立大学の学費無償化について、議員が問題視する発言を始めましたが、私には理解ができません。



卓 話 ●西村会員

「新会員スピーチ」



改めまして、みなと銀行龍野支店の西村明浩と申します。昨年 12 月から龍野ロータリークラブに入会させていただきました。約 2 か月が経過しましたが皆様から色々ご指導いただきながら楽しく参加させていただいており、本当にありがとうございます。特に 12 月のクリスマス会では、投扇興で空気を読まない事をしでかしてしまい申し訳ございませんでした。

さて、今回新会員スピーチということで私の自己紹介をさせていただきます。これまで自己紹介といえば所属と名前、一言申し上げるくらいのものでしか経験したことがなく、改めてこれまでの人生を振り返るいい機会を頂いたと思っております。

私は昭和 54 年、1979 年 8 月 16 日生まれの 45 歳。神戸市須磨区で生まれ、平田幼稚園、大黒小学校、太田中学校、星陵高校、神戸商科大学に通い、大学卒業後みなと銀行に就職しました。中学から大学まで野球をしており、野球に限らず運動全般は比較的好きな方です。ちなみに星陵高校は、石川県の野球の強豪校、ではなく神戸市垂水区にある普通の県立高校です。石川県の星陵高校とは「のぎへん」と「こぎとへん」の違いだけなので、神戸以外の人が高校名を見ると石川県の星陵高校と勘違いされることがあります。

さて、今からはこれまでの私の人生をもう少し詳しくお話させていただきます。

生まれ育ちは先ほど申し上げました神戸市須磨区です。須磨とはいいますが、隣のブロックからは長田区という須磨区の東端になります。最寄りの駅は山陽電車、神戸市営地下鉄の「板宿」駅となります。

幼稚園から、小学校、中学校まで太陽神戸銀行、兵庫相互銀行の間の道を通って通学しており、

それぞれ数年毎に銀行名が変わるので「ころころ名前変わるなあ」と思っておりましたが、気が付けばそのうちの片方に就職していました。

幼稚園時代、身長は高かった方ですが、小学校 3～5 年生で急激に伸び小学校 6 年生になってすぐの身長は 168cm ありました。今 171cm 程度なので、ほぼ今の私と同じ身長というかなりデカイ小学生でした。身長はその後伸び悩み中学校を卒業する頃には「少し背が高い」程度になり、今では成人男性の平均とほぼ同じというごく普通になってしまいました。

今から 30 年前の 1 月、当時中学 3 年生で受験直前という時期に阪神淡路大震災が発生しました。体感的に数分間の揺れの後、暗闇の中ベッドから出て物が散乱する部屋から玄関まで向かいましたが、揺れが収まった時点で既にガスの匂いがしており漏電での発火を恐れ照明を付けずに家の外に出た記憶が残っております。

当時は長田区を中心とした靴の製造工場が近隣に複数あり、小規模な木造住宅が密集する地区でした。工場の薬品や木造住宅で南の方で発生した火事がどんどん北上し、私の自宅のすぐ近くまで来ましたが、風向きが変わり何とか自宅は燃えずに済みました。ただ壁には穴が開き柱は傾いて生活できる状態ではなかったため、小学校に避難し約 2 か月間小学校での避難所生活を過ごしました。不幸中の幸いだったことは、当時父が相生で単身赴任をしていたため、風呂は相生の父の賃貸マンションで済ませることができました。ただ、ワンルームだった為、家族全員では避難できず小学校での避難所生活をしながら母、姉、私が交互に相生に行く生活が暫く続きました。

震災では私が通っていた中学校の校区ほぼ半分が火事で焼け、それ以外も多くの建物が倒壊しました。制服が焼けたり倒壊した家から取り出せない生徒も多かったため、全員が寄付で頂いたデニムシャツとジーパンという姿で卒業式を行いました。遠方に避難している生徒も多かったため、卒業式に参加できたのは全体の半分～2/3 程度だったと記憶しています。

火事が酷かった地域は震災後に区画整理事業によって区画が整理、道が拡幅され 30 年経った今、



見た目は綺麗な街に生まれ変わっています。

その後高校に進学し、野球漬けの毎日を過ごし、大学では野球と部室での麻雀、コンビニバイトに明け暮れていました。

大学の2回生、当時20才の時に通信教育のパンフレットでFP、ファイナンシャルプランナーという資格を知りました。今では認知度が相応に高まってきましたが、当時、少なくとも大学生には殆ど知られていない資格でした。

私は小学生の時からお金に興味をもつ、少し「変な子」でした。昭和の終り頃、小学校3年生か4年生くらいの時に「1億円あれば利息だけで生活できる。」という話を聞いたのがきっかけではないか、と思います。

通信教育でFPの講座を受講し少し勉強しましたが、大学の野球部で主務という事務的な役職に就き、勉強も中途半端になり学生時代に受験したAFP試験は不合格でした。しかしFPの資格を知ってから、何となく「金融関係の仕事に就きたい」と思い、就職活動は金融機関に絞って活動した結果、みなと銀行に就職することができました。ちなみに就職後、AFP、FP2級には合格しました。

みなと銀行に就職し最初は姫路市の御着支店に配属されました。御着支店では5か月間預金関係、その後1年5か月融資事務。約4か月間の人事部リクルーターを経て神戸市東灘区、阪急岡本駅近くの本山支店に配属となり渉外、いわゆる営業を経験。授信や保険等の個人預かり資産営業から小規模の事業性融資、住宅ローン等幅広く経験させてもらいました。その後三宮支店に異動しましたが、同じタイミングで支店長も新しくなりました。その支店長が「銀行内でも一二を争う厳しい支店長」ということで周囲からもとても心配されてことが印象に残っています。いざ異動してみると「給料に応じた指導」ということで中堅やベテランに対しては非常に厳しい指導がありましたが、若手には厳しいというよりむしろ丁寧に手取り足取り指導されました。言葉の定義やルール、それらがどこに記載されているか、というごく基本的な事が非常に大事。それすら知らなければ仕事なんかできない、という考え方の支店長でしたが、当時の経験が今の私の考え方の基礎となっていると思います。その支店長とは今でも草野球やゴルフ等に行ったりしています。

三宮支店の次に本店営業部に異動となり、こ

こで大きな挫折を味わいました。リーマンショックの翌年ということもあり、審査目線が厳しいことに加え多くのお客様が減益や赤字となり、融資の継続稟議だけで時間が過ぎていき前向きなことが全くできず時間が過ぎていきました。本店営業部から神戸市灘区の六甲道支店に異動し渉外課長となりました。渉外が三宮統括部に集約されていた期間も含めれば4年在籍しました。

その後審査部に異動となりましたが、当初は審査ではなく「事業性評価」室という部門に1年半、その後審査部門に2年の計3年半在席しました。3年半の間、元三井住友銀行姫路法人営業部長で、龍野ロータリークラブにも在席されていた村上裕司さんにも師事し様々な指導を受けました。審査部での経験は、自分の中でぼんやりしていた案件審査についてある程度形ができた事に加え、事業性評価室でお客様の商流をしっかり理解する事の大切さを学ぶことができたいい経験でした。

審査部から、大阪支店営業第二部次長になりました。本店営業部に次ぐ融資量がある拠点で次長ということで管理中心だと思っていましたが、現実には数件の特定の取引先に頻繁に集金に回るといったものでした。金融業界の方にはわかってもらえると思いますが、印紙の使用枚数も常に私が一番多い、というかなり特殊なポジションで大阪の街を自転車で走りまわっていました。次長としての管理業務は殆どできませんでしたが、非常に特徴、クセのあるお客様と接することができ、いい勉強になりました。その後2022年の4月、現在の龍野支店に着任し現在に至っております。

冒頭申し上げたように、今回卓話の機会を頂けてことで、改めてこれまでの人生を振り返ることができました。当初は30分間話し続けることなんか無理、と思っていましたが、いざ考え始めれば逆に時間が足りないくらいに感じました。震災の重たいお話もしましたが、当時の経験は間違いなく今の私にプラスの影響を与えていると思い、敢えてお話させていただきました。5年後10年後、龍野ロータリークラブでの経験を今回のように思い返すことができるよう精一杯頑張りますので、引き続きご指導お願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。